

付表① 当院で汎用される抗アレルギーと使用時の注意点

2024. 7. 12

商品名 (先発品・一般名)	用量(成人)	増量可	アレルギー 性鼻炎	蕁麻疹・皮膚 疾患に伴う そう痒	気管支 喘息	妊婦	授乳	運転規制	眠気
フェキソフェナジン (先発アレグラ)	1回60mg 1日2回	適宜増減	○	○			○	なし	少ない
ロラタジン (先発クラリチン)	1回10mg 1日1回	適宜増減	○	○		○	○	なし	少ない
デザレックス (デスロラタジン) 院外のみ【試用】	1回5mg 1日1回	—	○	○			○	なし	少ない
ビラノア (ビラスチン)【試用】	1回20mg 1日1回空腹時	—	○	○				なし	少ない
エバスチン (先発エバステル)	1回5~10mg 1日1回	適宜増減	○	○				注意させる	すこし出る
ベポタスチン (先発タリオン) 院外のみ	1回10mg 1日2回	適宜増減	○	○				注意すること	すこし出る
レボセチリジン (先発ザイザル)	1回5mg 1日1回	適宜増減 10mgまで	○	○		○	○	従事させない	強い
オロパタジン (先発アレロック)	1回5mg 1日2回朝・眠前	適宜増減	○	○				従事させない	強い
ゼスラン (メキタジン) 院外のみ	1回1錠 1日2回	適宜増減	○	○	○			従事させない	強い
ルパフィン (ルパタジンフマル酸塩) 院外のみ【試用】	1回10mg 1日1回	20mgまで増 量可	○	○				従事させない	とても強い
ディレグラ配合 院外のみ【試用】 (フェキソフェナジン+プソイドエフェドリン)	1回2錠 1日2回(空腹時)	—	○※	—			○	なし	動悸・不眠の 可能性

付表② 当院で汎用される抗アレルギーと使用時の注意点

2024. 7. 12

商品名（先発品・一般名）	消失経路	肝機能障害者への投与	腎機能障害者への投与	禁忌疾患：注意すべき疾患・その他
ビラノア （ビラスチン）	腎・肝	◎ （重篤な副作用に肝なし）	GFR<50では血中濃度上昇のおそれ 腎機能障害でも用量調節不要（影響少）	
ベポタスチン （先発タリオン）	腎		低用量（1回5mg等）から開始するなど慎重に投与・血中濃度上昇のおそれ	
フェキソフェナジン（先発アレグラ）	腎	○	Ccr15~60; 1回30~60mg 1日2回 Ccr15未満; 1回30mg 1日2回	
ディレグラ配合 （フェキソフェナジン+プソイドエフェドリン）	腎		適宜減量。プソイドエフェドリンの排泄遅延、作用増強のおそれあり。 高度腎機能障害では1回1錠を1日1~2回	※中等症以上の鼻閉症状のみ使用可 2週間以上の有効性・安全性の検討なし <u>α受容体刺激作用もあり</u> 禁忌；重症高血圧、重症冠動脈疾患、閉塞隅角緑内障、尿閉患者
ゼスラン （メキタジン）	肝	肝機能障害に対する注意事項なし。ただし重大な副作用に「 <u>劇症肝炎</u> 」あり、 <u>肝機能正常であっても注意が必要</u>	長期投与例でBUN上昇あり	<u>抗コリン作用あり</u> <u>禁忌；閉塞隅角緑内障、前立腺肥大</u> 開放隅角緑内障の患者；眼圧が上昇し症状悪化させることあり
レボセチリジン （先発ザイザル）	腎	高い血中濃度持続のおそれあり	Ccr50~79; 1日1回2.5mg Ccr30~49; 1回2.5mgを2日に1回 Ccr10-29; 1回2.5mgを週2回 Ccr10未満: 禁忌	
エバスチン（先発エバステル）	肝	肝機能異常があらわれるおそれ	◎腎機能正常者と同じ	
ロラタジン （先発クラリチン）	肝	血中濃度が上昇するおそれあり	ロラタジン及び活性代謝物の血中濃度上昇のおそれあり	※重大な副作用に「てんかん」 てんかん既往者では発作があらわれることがある
デザレックス （デスロラタジン）			血中濃度が上昇するおそれあり 活性代謝物が腎から排泄されるため血中濃度上昇のおそれあり慎重投与	
ルパフィン（ルパタジンフマル酸塩）			活性代謝物の血中濃度上昇のおそれあり	
オロパタジン （先発アレロック）	腎	×肝機能障害が悪化するおそれあり	Ccr15~60; 1回2.5~5mg 1日1~2回 Ccr15未満; 1日1回2.5mg	重大な副作用に「 <u>劇症肝炎</u> 」